

## 総合生活支援技術演習計画書

### 1 実施方法

- ①受講者10名をA～Bグループ（1グループ5名）に分けて実施する。
- ②支援技術演習では、グループ内で2～3人一組となり演習を行う。
- ③事例の提示⇒こころとからだの力が発揮できない要因を分析⇒適切な支援技術の検討⇒支援技術演習

### 2 タイムスケジュール

【1グループあたりのタイムスケジュールについて】

- ①事例1の提示（10分）
- ②こころとからだの力が発揮できない要因の分析（40分）
- ③適切な支援技術の検討（40分）
- ④支援技術演習（40分）  
受講生一人8分程度

1. 体調の確認（1分）
2. おむつ交換（3分）
3. 移乗介助（2分）
4. 着脱介助（2分）
- ⑤支援技術の課題（20分）  
（合計150分）

- ①事例2の提示（10分）
- ②こころとからだの力が発揮できない要因の分析（40分）
- ③適切な支援技術の検討（40分）
- ④支援技術演習（40分）  
受講生一人8分程度

1. 体調の確認（1分）
2. 着脱介助（2分）
3. 移動介助（2分）
4. 入浴介助（3分）
- ⑤支援技術の課題（20分）  
（合計150分）

### 3 想定事例について

<想定事例1>

ア 事例内容（利用者のプロフィール（生活歴、家族歴、既往症など）、サービス提供の内容等）

【氏名】中川 千尋【年齢】84歳【性別】女性【介護度】要介護4

【家族】夫は5年前に癌のため逝去。子供は息子1人、結婚し妻と3人暮らし。

【既往歴】①大腿骨頸部骨折（H23）  
②アルツハイマー型認知症（H28）

【日常生活の状況】

食事：全介助（ペースト食）

入浴：全介助

排泄：全介助

移動：全介助

起居動作：全介助

整容：全介助

口腔ケア：全介助

掃除、洗濯、調理、買い物、金銭管理：全介助（嫁が行っている）

コミュニケーション：発語困難、表情は確認できる

趣味嗜好：歌を聞くのが大好き

【健康状態】アルツハイマー型の認知症が進行し、身の回りのことを認知できず、発語もなく、歩く、立つ、座ることもできない状態。尿意、便意の訴えもなく、ほぼ寝たきり状態。麻痺はないが、四肢の関節に拘縮が見られ、特に膝関節と肘関節は軽度に曲がった状態になってからほぼ2年になる。

【一日の様子】午前7時に目覚め、オムツや着替えの介助を受けている。介助を受けているとき、眉間にしわを寄せて嫌な表情をすることがある。午前8時には朝食（ペースト食）、口腔ケアの介助を受けている。以前は総義歯をつけていたが、サイズが合わなくなり現在は入れていない。食後、午前10時頃まで車いす上で過ごしている。その後は昼食までベッドで臥床し、昼食前にオムツ介助、その後、昼食、車いすで過ごし、夕食というリズムで一日を過ごしている。家族支援は大半が嫁が行っている。

### イ 学習目標（学習するポイント）

認知症の進行により自分の要望を訴えることや意思表示ができないこと、寝たきり状態の生活を余儀なくされていることから、寝たきり状態をそのままにした場合に発生するさまざまなリスクについて考えてみる。そして、その視点がどのような知識を用いて判断しているかに注意して展開していく。

<想定事例2>

ア 事例内容（利用者のプロフィール（生活歴、家族歴、既往症など）、サービス提供の内容等）

【氏名】村田 秋雄【年齢】76歳 【性別】男性（介護度）要支援2

【家族】妻と2人暮らし。子供はいない。

【既往歴】①脳梗塞（H10）

②高血圧（H18）

③糖尿病（H19）

【日常生活の状況】

食事：自立、右手で食べることはできる。ただ、汁物で時々咽ることがある。

入浴：見守りや一部介助、介助者が背中足先や健側を洗っている。

排泄：自立

移動：見守りや一部介助、ふらつきがある。

立ち上がり：見守りや一部介助、ふらつきがある。

寝返り：自立、仰向けと右側臥位はできる。

整容：一部介助、介助者が必要なものを用意すればできる。

口腔ケア：一部介助、介助者が必要なものを用意すればできる。

掃除、洗濯、調理、買い物、金銭管理：全介助（妻が行っている）

電話：自立

コミュニケーション：軽度の構音障害があるが会話、意思疎通は問題ない。

趣味嗜好：地域で草野球を70歳までしていた。

【健康状態】脳梗塞で左不全麻痺（利き手は右）になってから半年が経過した。軽度の構音障害はあるが、会話や意思伝達には問題ない。現在、リハビリテーションに週2回通っている。

移動は杖歩行、排泄や食事もほとんど自分でできるものの、立ち上がり時ふらつきがあり歩行と入浴は見守りや一部介助が必要。家事（調理、掃除、買物等）は妻が行っている。

【一日の様子】午前6時に起床し、トイレ、日常着への着替え、午前7時30分に朝食（一般食）、歯磨き（74歳から総義歯）、髭剃り、髪をとかすという朝の行為を一部の介助を受けながら行っている。その後、リハビリ室で歩行訓練、昼食を済ませ、夕方までの間に入浴や自分の好きなことをして過ごしている。午後9時30分には一部の介助を受けて寝間着に着替えてベッドに入り、夜間不眠を訴えることもなく、朝まで睡眠している。

イ 学習目標（学習するポイント）

左不全麻痺を抱えながら日常生活動作を自立できるようにするための支援と同時に、転倒など麻痺があることによるリスクが考えられるので、安全を考慮した方法をどのように考えているか、どのような知識を用いて判断しているかに注意して、展開していく。